

より配送能力の高い自動配送ロボットの社会実装検討WG 第1回プレゼンテーション資料

2024年7月17日

一般社団法人日本自動車工業会

次世代モビリティ政策部会

望ましい「機体の大きさ・速度」

- 中速・中型ロボットの機体サイズが軽自動車のサイズに近くなると、中速・中型ロボットと軽自動車それぞれの車両開発・製造・認可等の法規制で生じる差の理屈付けが必要と考えます。
- 速度等の運用に関して、機体サイズに大差ないものの、中速・中型ロボットと軽自動車では明らかな規制の差がある場合、明確な根拠付けが必要と考えます。
- 速度に関して、既存の交通車両の速度(制限速度・実勢速度)との差により危険が生じるシーンが想定されるので、道路交通全体視点で安全性をどのように担保するのかの検証が必要と考えます。

望ましい「通行場所・通行方法」

- 想定されている機体の大きさ・速度から、車道を通行し道路の左側を通行することが適切と思われますが、道路の条件により以下の検討が必要と考えます。
 - ✓ 中速・中型ロボットが要因となる他交通の渋滞発生や無理な追い越しにより、ロボット以外の車両事故等への対策 (特に道路幅員が狭い場合)
 - ✓ 路面に接している住居や店舗から自動車等が出る際に街路樹等で視認できない場合、ロボットを認知してもらう機能等
 - ✓ 路側帯に障害物がある場合、中速・中型ロボットはどこまで車線に入ることを認められるのか
 - ✓ 信号機の認識方法と、黄色信号の場合どのように判断しロボットが制御されるのか
 - ✓ 既存の人物流(トラック・バスなど)インフラへの影響を与えない範囲での走行
 - ✓ 緊急車両等の走行を阻害しないもしくは回避を行えるような制御

望ましい「運用方法」

- 自動車に求められる法規と、中速・中型ロボットに求められる法規の統合が必要と考えます。
 - ✓ ロボットに限定し運用上の規制緩和(猶予)をするのであれば、安全性の検証や社会的影響度(問題発生時の周囲への影響が大きくない、安全に停止できるなど)
- 道路交通全体視点で安全性をどのように担保するのかの視点で検証が必要と考えます。
 - ✓ 中速・中型ロボットより速度が低い他の交通者(自転車等)が前方に存在した場合、追い越し等の運用を認めるのか
 - ✓ ロボットの能力では対応できない状況が発生した場合、遠隔操作者がロボットを制御し、周囲に影響を及ぼさないよう安全を確保することを考慮した運用(合わせて遠隔操作者に求める要件の検討も必要)